

第6章 前回調査結果との比較－犯罪被害に対する不安感・防犯対策について

本章では、今回の2004年調査結果（n=1782）と、2002年全国対象の前回調査（n=1455）との比較を行い、犯罪被害に対する不安感および防犯対策との関係についてみていく。

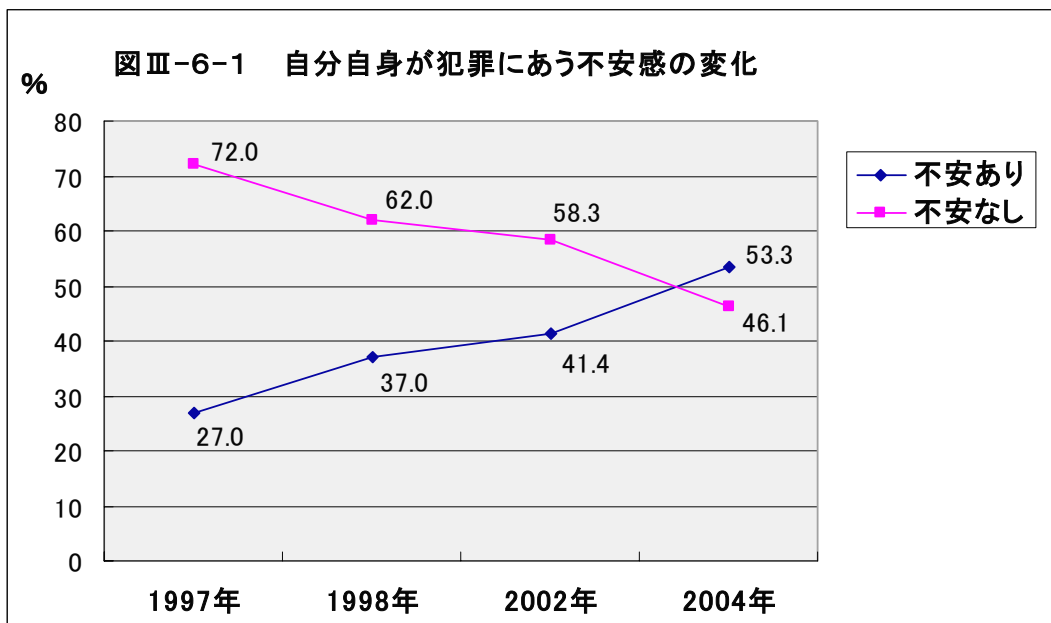
1. 犯罪被害にあった経験と犯罪の被害にあう不安感

（1） 自分自身が犯罪にあう不安感の変化

自分が犯罪被害にあいそうな不安を感じるかについて、前回調査（2002年）と今回調査（2004年）を比べたところ、「不安を感じる」者（「よくある」＋「たまにある」）の割合は41.4%（2002年）から53.3%（2004年）へと増加し、半数を越えた。

一方、不安を感じない者（「ほとんどない」＋「まったくない」）は、58.3%（2002年）から46.1%（2004年）と減少した（不明・無回答を除く）。

また、社団法人・新情報センターが、1997年と1998年に行った同じ質問の結果をあわせた過去8年の経年変化が（図Ⅲ-6-1）である。2004年の今回調査ではじめて、「不安あり」が「不安なし」を逆転し、割合の半数を越えたことがわかる。このことから、2004年は犯罪にあう不安感が高まった「犯罪不安年」と呼ぶことができよう。なお、過去3回の不安感項目の回答内訳は、当財団の前回調査報告書を参照されたい。



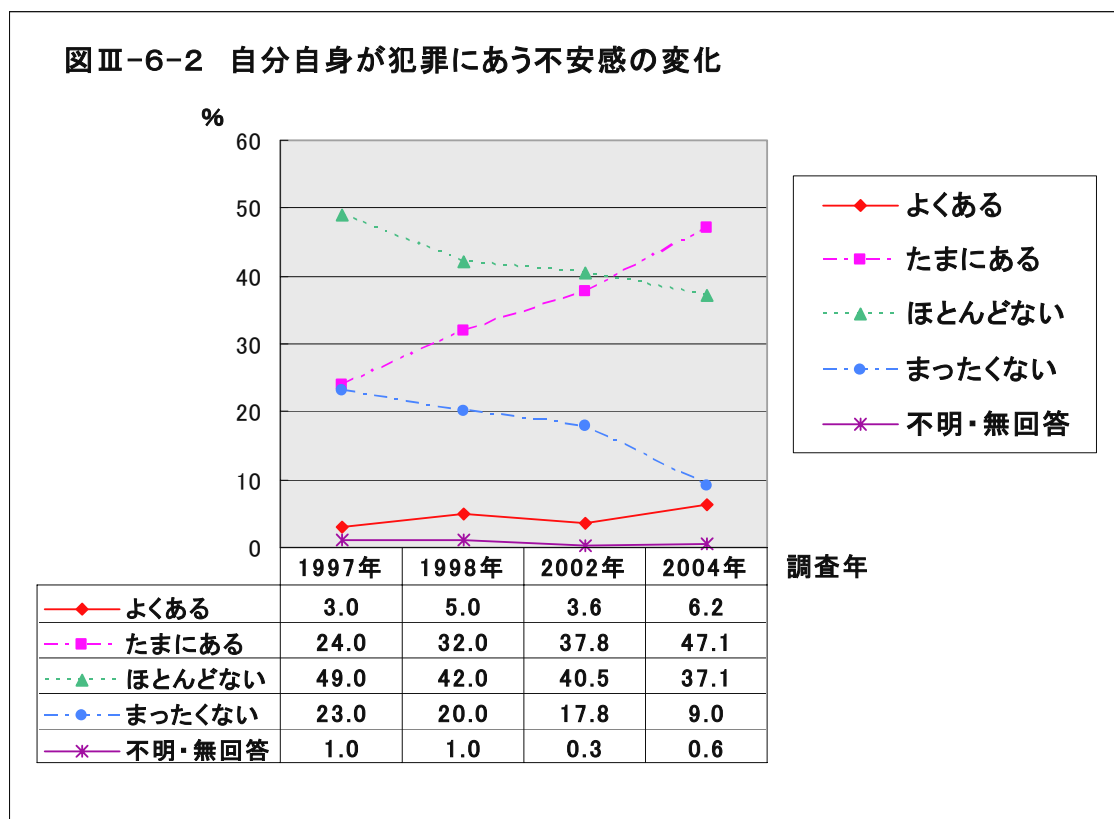
(2) 自分自身が犯罪にあう不安感への回答の変化

また、「自分自身が犯罪にあう不安感」の回答の内訳について、1997年から2004までの過去8年間の経年比較（図Ⅲ-6-2）をみると、2004年の今回調査で、「ほとんどない（37.1%）」の回答を「たまにある（47.1%）」が逆転している。

そして、「まったくない」は年々減少していた（1997年：23.0%→1998年：20.0%→2002年：17.8%→2004年9.0%）。

さらに、「よくある」では、前回調査（2002年）に比べると今回調査（2004年）で、倍増に近い数字（2002年：3.6%→2004年6.2%）を示している。

このように、「自分自身があう不安感」は、回答の内訳を細かく検討しても、年々高まっていることがわかる。

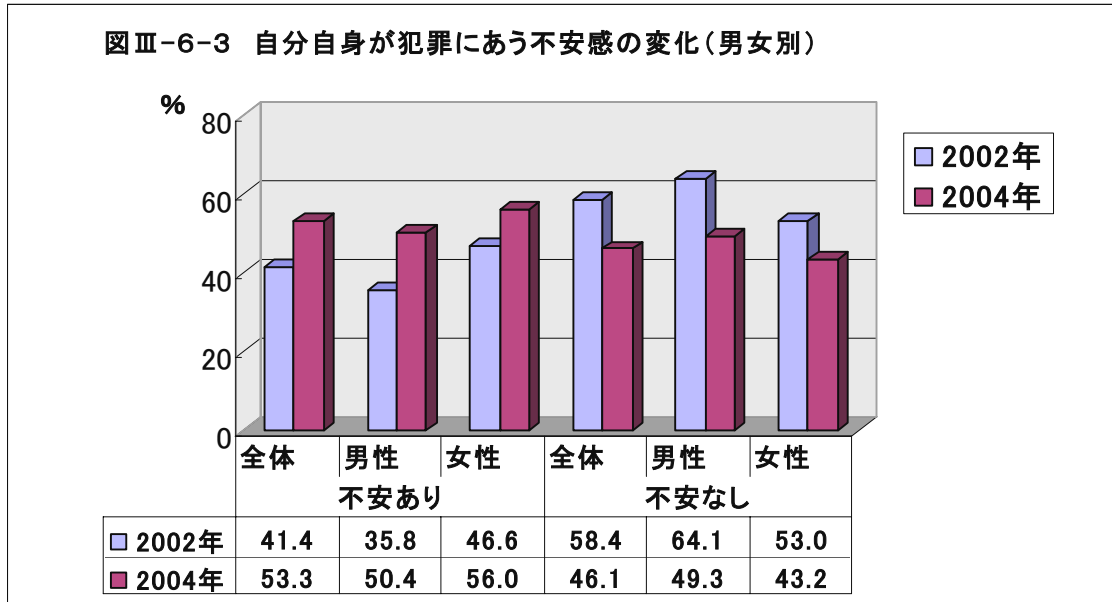


(3) 自分自身が犯罪にあう不安感の変化（男女別）

「自分自身が犯罪にあう不安感」について、男女別に今回調査（2004年）と前回調査（2002年）の比較を行った（図Ⅲ-6-3）。その結果、前回（2002年）、今回（2004年）ともに男性よりも「女性」の不安感が高かった（2002年：男性35.8%・女性46.6%、2004年：男性50.4%、女性56.0%、不明・無回答を除く）。

また、男性の不安感は、（2002年：35.8%→2004年：50.4%）と、女性（2002年：46.6%→2004年：56.0%）よりも高い伸びを示している。

基本的に、性別では、「男性」よりも「女性」の方が犯罪にあう不安感が高いという傾向があるが、2002年の前回調査から2004年の今回調査の変化の特徴としては、「男性」の不安感が高まったという点があげられる。

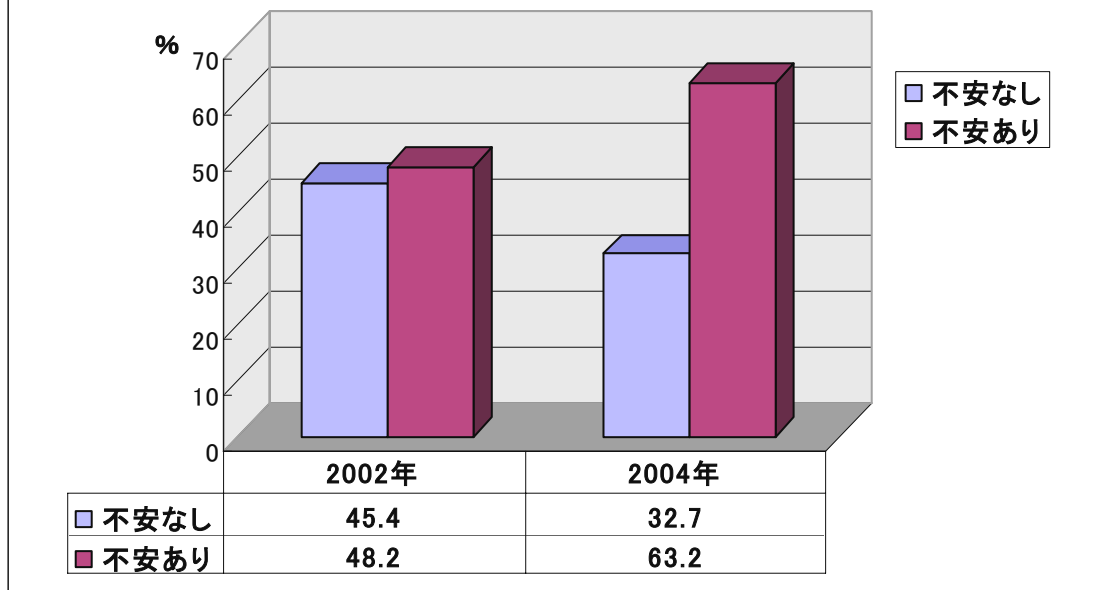


(4) 同居の家族が犯罪被害にあう不安感の変化

同居の家族が、犯罪の被害にあうのではないかという不安感について、「不安を感じる」者（「よくある」＋「たまにある」）と不安を感じない者（「ほとんどない」＋「まったくない」）に分け、前回調査（2002年）と今回調査（2004年）の比較を行った（図Ⅲ-6-4）。「不安感あり」の割合は前回よりも増加し（2002年：48.2%→2004年：63.2%）、「不安感なし」の割合は減少していた（2002年：45.4%→2004年：32.7%）と減少していた（家族はいない・無回答を除く）。

このように、犯罪にあう不安感は、自分自身だけでなく、同居の家族に関しても2002年の前回調査よりも増加傾向にあることが示された。

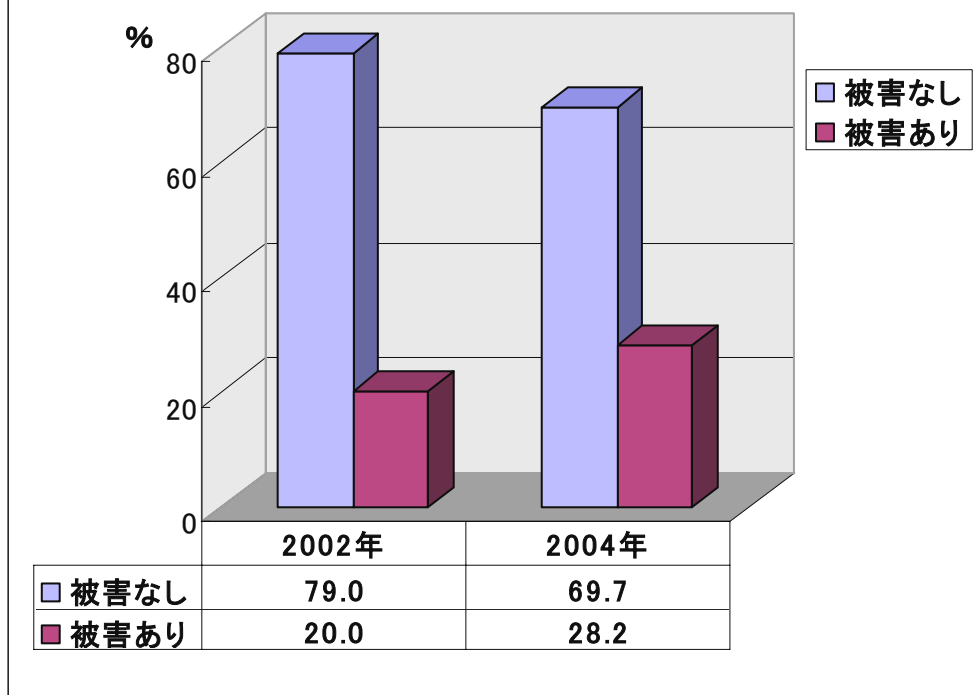
図Ⅲ-6-4 同居の家族が犯罪被害にあう不安感の変化



(5) この1年間の自分または同居家族の犯罪被害経験の変化

この1年間に自分または同居家族の被害経験があったかどうかについて、前回調査(2002年)と今回調査(2004年)の比較をおこなった(図Ⅲ-6-5)。その結果、「犯罪被害をうけた」者の割合は、2002年の20.0%に対して、2004年は28.2%と高くなっていた(不明・無回答を除く)。この結果から、犯罪不安だけでなく被害経験も2002年時よりも増加傾向にあり、約7割の回答者が犯罪被害経験にあっていること示された。

図Ⅲ-6-5 この1年間の自分または同居家族の犯罪被害経験の変化



(6) この1年に自分・家族が受けた犯罪被害の罪種の変化

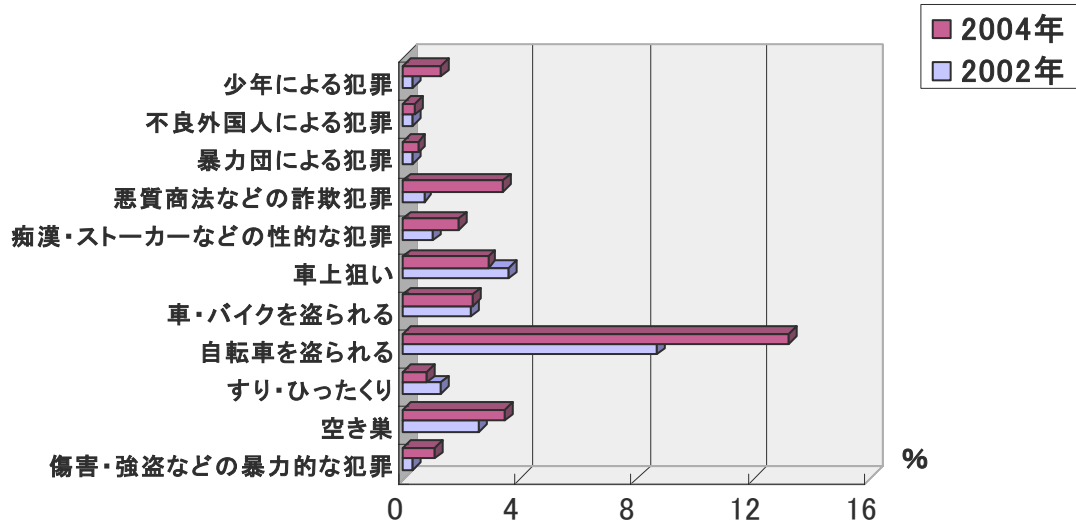
この1年の自分・家族が受けた犯罪被害の罪種について、2002年の前回調査と共通する項目のみではあるが、2004年の今回調査の比較を行った(図Ⅲ-6-6)。その結果、罪種によって異なる傾向が示された。

2002年の前回調査よりも2004年の今回調査で増加傾向を示したのは、「自転車盗」(2002年：8.7→2004年：13.2%)、「悪質商法などの詐欺犯罪」(2002年：0.7%→2004年：3.4%)、「少年犯罪」(2002年：0.3→2004年：1.3%)、「空き巣」(2002年：2.6→2004年：3.5%)、「傷害・強盗などの暴力的な犯罪」(2002年：0.3→2004年：1.1%)であった。

逆に、減少傾向を示したのは、「車上狙い」(2002年：3.6→2004年：2.9%)、「すり・ひったくり」(2002年：1.3→2004年：0.3%)であった。

今回の調査結果をみると、罪種による変化の特徴としては、「自転車盗」の被害経験が罪種の中でも最も高く増加傾向にあった。他の大きな変化としては、「悪質商法などの詐欺犯罪」が高まっているといえる。これは、ここ近年話題となっている「振り込め詐欺(オレオレ詐欺)」や出会い系サイトによる「架空請求」といった詐欺犯罪の増加を反映しているものと思われる。また、年少者による凶悪犯罪などで話題に上ることが多い「少年犯罪」や侵入盗である「空き巣」被害は、微増傾向にあった。

図Ⅲ-6-6 この1年に自分・家族が受けた犯罪被害の罪種の変化



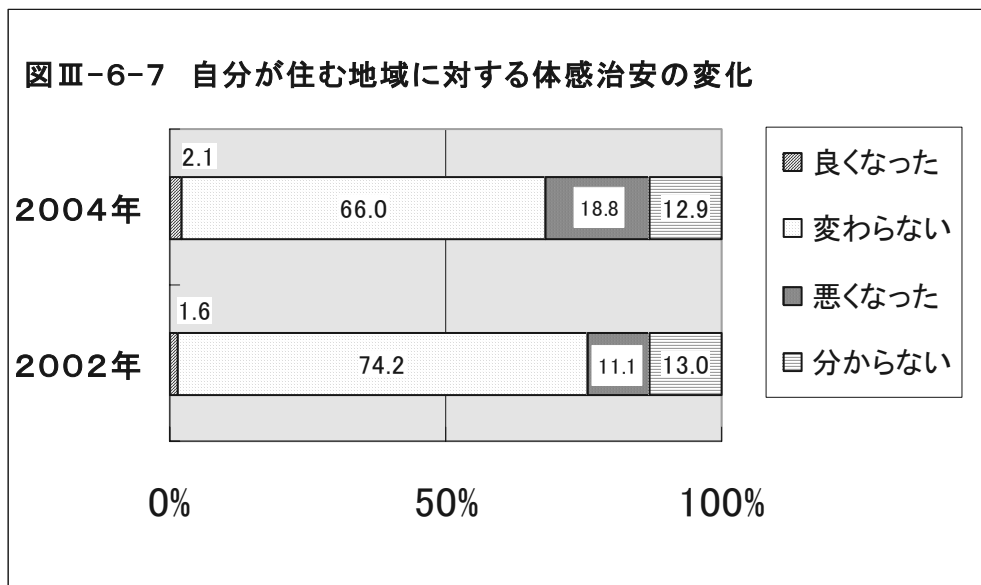
	傷害・強盗	空き巣	すり・ひったくり	自転車を盗ら	車・バイクを	車上狙い	痴漢・ス	悪質商法など	暴力団による	不良外国人に	少年による犯
■ 2004年	1.1	3.5	0.8	13.2	2.4	2.9	1.9	3.4	0.5	0.4	1.3
■ 2002年	0.3	2.6	1.3	8.7	2.3	3.6	1.0	0.7	0.3	0.3	0.3

2. 治安状況と防犯対策について

ここでは、治安状況と犯罪被害に対する防犯対策について、前回調査（2002年）と今回調査（2004年）を比較し、その変化についてみていく。

（1）一年前と比べた居住地域の治安状況変化

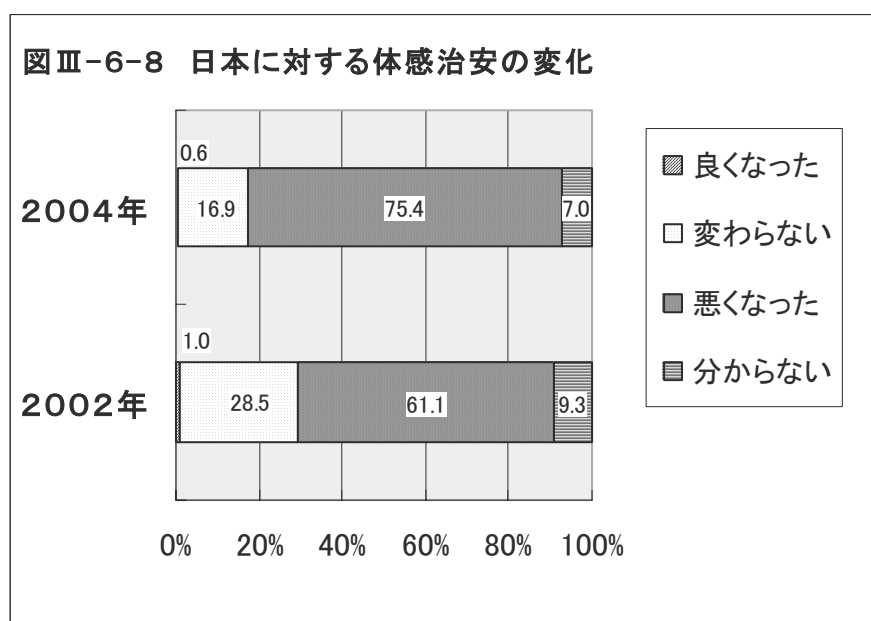
一年前と比べた居住地域の治安についての回答を2002年と2004年で比較したのが図Ⅲ-6-7である。2002年の前回調査に比べ、2004年の今回調査では、「変わらない」という回答が減少していた（2002年：74.2%→2004年66.0%）。その一方で、「悪くなった」という回答は増加してした（2002年：11.1%→2004年18.8%）。これらと、「良くなった」と回答した者の割合が微増（2002年：1.6%→2004年2.1%）であることを考慮すると、自分の居住する地域の不安感が高まってきているといえる。



(2) 一年前と比べた日本の治安状況変化

日本の治安は一年前と比べて良くなったかを聞いたところ、2004年の調査結果は、2002年の調査よりも体感治安はかなり悪化している（図Ⅲ-6-8）。

「悪くなった」と回答した者の割合は増加し（2002年：61.1%→2004年75.4%）、「良くなった」と答えた者の割合は減少している（2002年：1.0%→2004年0.6%）。また、「変わらない」の回答も減っていた（2002年：28.5%→2004年16.9%）。これらの変化から、日本全体の治安が悪化したという印象をもつ者がかなり増加傾向にあることが明らかになった。



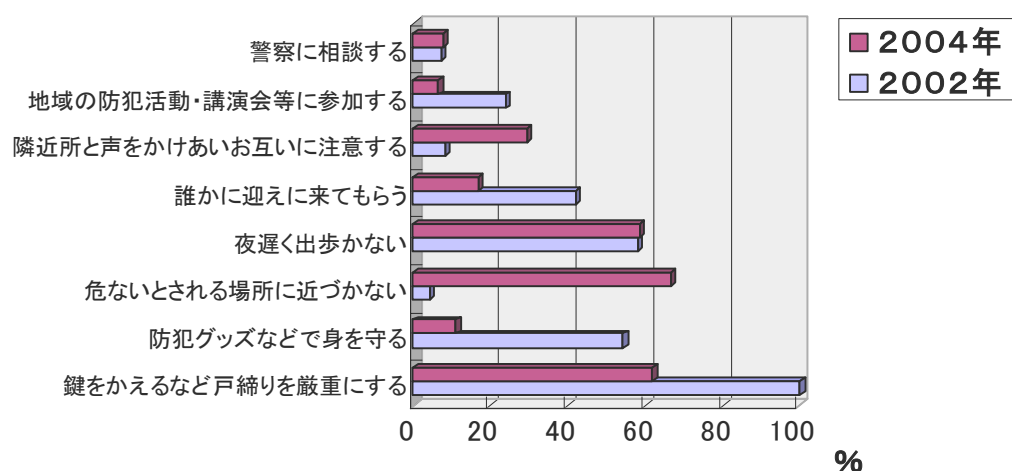
(3) 犯罪被害にあわないための個人対策

犯罪被害にあわないための個人対策をきいたところ、2004年の今回調査では、2002年の前回調査に比べいくつかの変化がみられた（図Ⅲ-6-9）。

個人の防犯対策では、「鍵をかえるなど戸締りを厳重にする」（2002年：100%→2004年61.8%）や、「防犯グッズなどで身を守る」（2002年：54.2%→2004年11.1%）が減った。その一方で、「地域社会との連携」を示すといえる「隣近所と声をかけあいお互いに注意する」（2002年：8.2%→2004年29.3%）の増加が目立っていた。他には、警察による実際に犯罪が発生した場所を示す地図や「地域安全マップ」が公開されるなどの対策を反映してか「危ないとされる場所に近づかない」（2002年：4.4%→2004年66.7%）が大幅に増加していた。その他では、「誰かに迎えに来てもらう」が減少していた（2002年：42.0%→2004年16.9%）。

これらの結果から、個人の犯罪被害への防衛手段として、まず犯罪多発地帯へは近づかないという防犯対策が増えていることが特徴的であった。また、「隣近所と声をかけあいお互いに注意する」が増加したのは、「空き巣」などの侵入盗の被害の増加も一因であると思われる。これは、隣近所といった「地域住民との連帯」の意向を示す結果ともいえよう。

図Ⅲ-6-9 犯罪被害にあわないための個人の防犯対策の変化



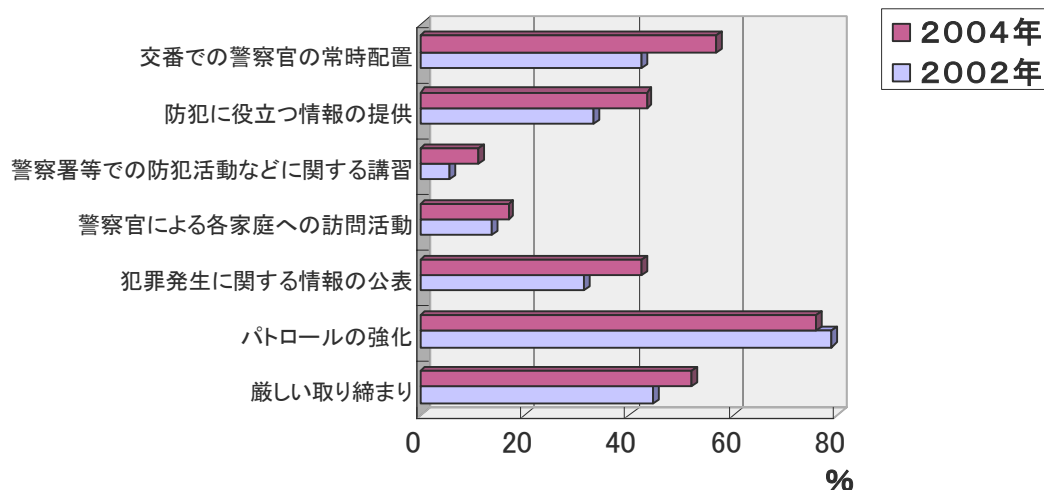
	鍵をかえるなど戸締	防犯グッズなどで	危ないとされる場所	夜遅く出歩かない	誰かに迎えに来ても	隣近所と声をかけあ	地域の防犯活動・講	警察に相談する
■ 2004年	61.8	11.1	66.7	58.6	16.9	29.3	6.5	7.9
■ 2002年	100.0	54.2	4.4	58.0	42.0	8.2	23.8	7.4

(4) 犯罪被害にあわないための警察への要望

犯罪被害にあわないために警察してほしいことを聞いた2002年の前回調査と2004年の今回調査を比較したところ、項目中で最も高い数値を示している「パトロールの強化」(2002年：78.6%→2004年75.9%)を除き、ほとんどの項目が増加傾向にあった(図Ⅲ-6-10)。

警察への要望の高さの変化としては、「交番での警察官の常備配置」(2002年：42.5%→2004年56.7%)や、「犯罪発生に関する情報の公表」(2002年：31.4%→2004年42.5%)が10%以上の増加傾向にあり、顕著な変化を示していた。

図Ⅲ-6-10 犯罪被害にあわないための警察への要望の変化



	厳しい取り締まり	パトロールの強化	犯罪発生に関する情報	警察官による各家庭	警察署等での防犯活動	防犯に役立つ情報の提供	交番での警察官の常備配置
■ 2004年	52.0	75.9	42.5	16.9	11.2	43.3	56.7
■ 2002年	44.7	78.6	31.4	13.9	5.6	33.3	42.5

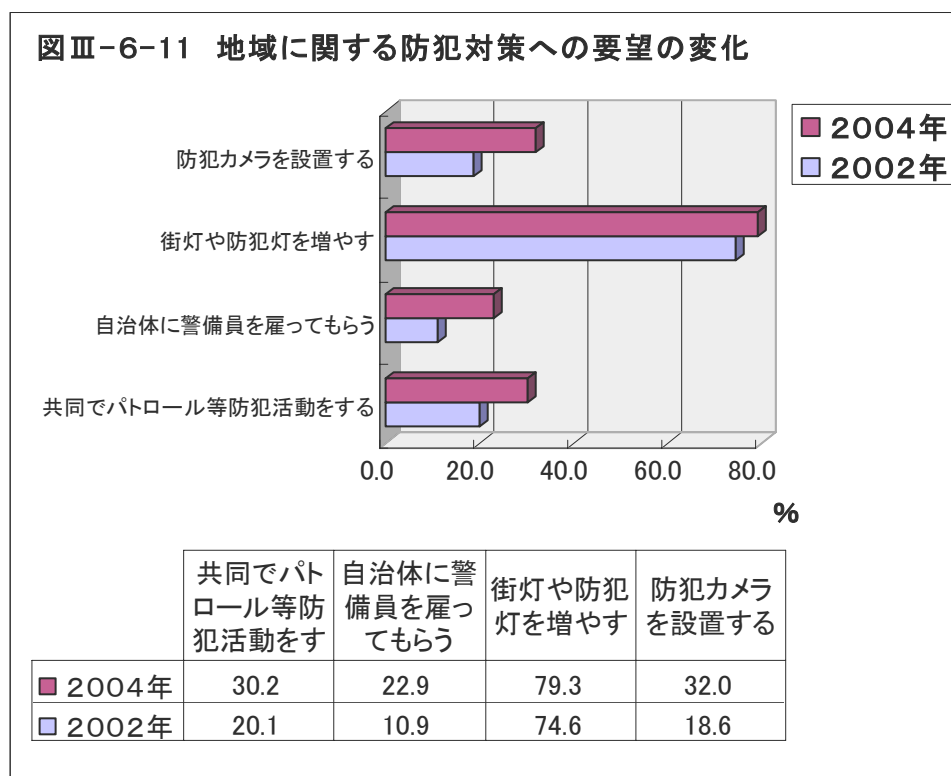
(5) 地域に関する防犯対策

「他の住民と共同して地域の安全を守るためにできること」への回答について、2002年調査と2004年の今回調査の比較を行った。

比較の結果、2002年の前回調査よりも2004年の今回調査では、前回調査と共通する項目において、地域に対する防犯対策の要望は、すべての項目で高くなっていた（図Ⅲ-6-11）。

例えば、「共同でパトロール活動をする」では、2002年20.1%→2004年30.2%と増加し、防犯活動に対する地域住民との連携を示す要望が高くなっている。その他では、地域の防犯対策の一環としての「防犯カメラを設置する」も、2002年18.6%→2004年32.0%と増加傾向を示していた。

このように、地域に関する防犯対策の意識は年々高くなってきているといえよう。

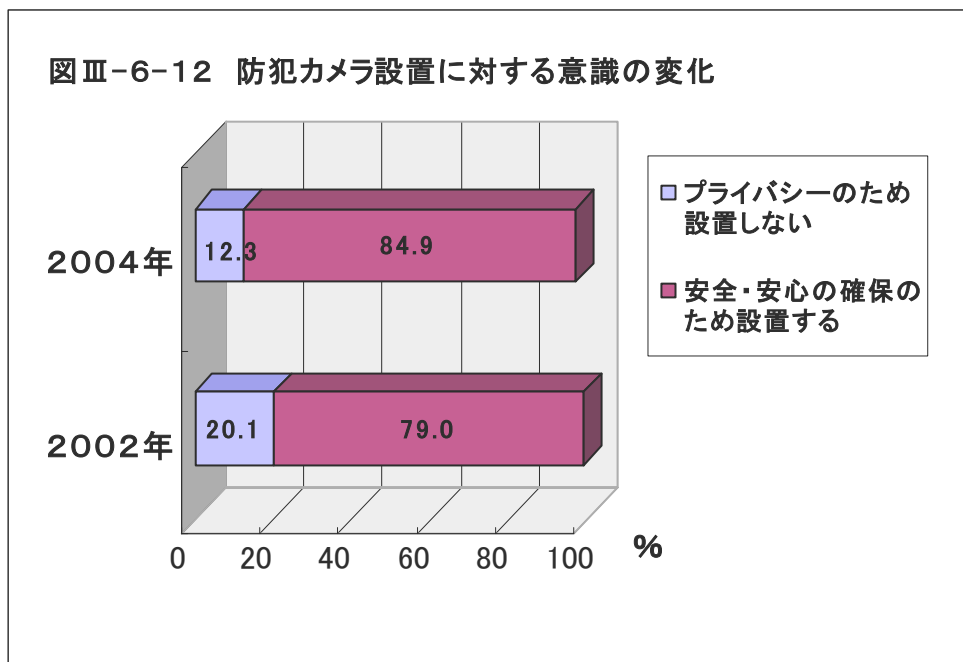


(6) 防犯カメラの設置とプライバシーの保護について

「公共の場所での防犯カメラの設置」が大切か、それとも「個人のプライバシー保護のバランス」が大切かを聞いた回答について、2002年調査と2004年の今回調査の比較を行った。2004年の調査結果では、「安全・安心のため設置する（「設置する」＋「どちらかといえば設置する」の合計）」と回答した者は84.9%であり、「プライバシーのため設置しない（「設置しない」＋「どちらかといえば設置しない」の合計）」と答えた者は12.3%であった（無回答・不明を除く）。

そして、2002年の前回調査よりも2004年の今回調査との比較では、「防犯カメラの設置をする」は上昇傾向を示していた（図Ⅲ-6-12）。

この防犯カメラの設置に対する意識は、2002年の調査結果で約8割の者が、プライバシーのため設置しないよりも、安全・安心のため防犯カメラの設置の方を希望していた。さらに、2004年の今回調査でも、防犯カメラ設置の支持が8割以上であったことから、多くの者が防犯対策のための「防犯カメラ」設置に肯定的な態度を維持していることが示されたといえる。



3. まとめ

「犯罪被害にあう不安感」は、年々高まっているといえるが、2004年の今回調査を2002年の前回調査を含めた経年比較による変化をみたところ、たいへん興味深い結果が得られた。それは、「自分自身が犯罪にあう不安感」が、過去8年間ではじめて「不安あり」の回答を「不安なし」が上回った点である。それだけ、日本では多くの者が犯罪にあう不安感をもっており、「犯罪被害への不安感」の重要性があらためて明らかになったといえる。

この「犯罪被害への不安感」の高さは、前回調査と同様に、今回調査でも「女性」の方が男性よりも高いというデータが示された。しかしながら、今回調査の結果からみると「男性」の不安感が特に増加傾向にあったことから、全体的な不安感の高まりの背景には、男性が被害にあいやすい犯罪の増加も一因であるといえよう。

犯罪被害経験も前回調査より増加していたが、これは罪種によって異なる傾向がみられた。罪種のなかでも、「自転車盗」や「悪質商法などの詐欺犯罪」がとりわけ高い増加を示していた。「詐欺犯罪」については、「振り込み詐欺（オレオレ詐欺）」や出会い系サイトなどの架空請求といった手口の犯罪の増加を反映しているものと思われる。

これは、ここ近年、話題となっている「振り込み詐欺（オレオレ詐欺）」や出会い系サイトによる「架空請求」といった詐欺犯罪の増加を反映しているものと思われる。

体験治安に関しては、前回調査と比較した結果では、自分の居住する地域の治安低下を感じている者が増えていた。さらに、日本全体の治安に関しては、非常に多くの者が「悪くなった」と回答しており、治安悪化の印象に関してはかなり深刻な状態にあることが浮かび上がったといえる。

最後に、前回調査との比較で、防犯意識において最も特徴的であった点をあげる。今回調査では、「戸締り」といった「個人のみ」での防犯対策よりも、「隣近所への声かけ」といった「近隣住民」と連携した防犯活動が増加していた。これは防犯対策としての“地域住民との連帯”への意識の高まりを示しているといえることができる。

【文献】

社会安全研究財団，2002，調査研究報告書「犯罪に対する不安感等に関する世論調査」